

# 「蟻の兵隊」と懇話会 盛会でした!!

8月1日(火)、渋谷のシアター・イメージフォーラムで映画「蟻の兵隊」を觀賞し、その後青山子ども劇場のレストランで昼食をとりながら、「蟻の兵隊」の奥村さんと同じ立場の佐々木繁男さんを囲んで懇話会をしました。熱のこもったお話に時間が足りず、「もう少し延長したい」「もう一度ぜひ聞きたい」という声があがりました。

また、当日参加できず他の日に観に行かれた方、どうしても都合がつかなかった方々からもぜひ佐々木さんのお話を聞きたいというご連絡もたくさん頂きました。

そこで右のとおりアンコール懇話会を計画しました。ぜひご参加を!!

みなさんの  
ご要望に応じて

この前の  
続きを  
ゆっくいと!!

## 佐々木繁男さん を囲む 懇話会

★ 2006年9月8日(金)  
午後 6時30分

★ 成城南区民集会所  
(成城会館) 地図参照

★会場費・資料代 500円

あると同時に「鬼のような」加害者であることを直視せねばならなかった。残留軍の元上官が、中共軍に捕らえられていた時に書いた自分の反省書コピーを読んで絞るように呟く。

「鬼だ。戦争は人間を鬼にする。戦争を二度と起こさせてはならない。」

映画鑑賞後の懇話会(22名参加)。佐々木繁男さん(年金者組合)にお話いただいた。佐々木さんも奥村和一さんと同じく山西省残留軍人で、中共軍と戦い捕虜になり、一九五四年帰国した。

現地軍首脳部(澄田司令官ら)による、闇との密約とその目的、隠蔽工作などが、『私のあしあと』(澄田著)その他を引用して解説された。部下の将兵を人身御供にして自らは無事逃げ帰った司令官らの卑劣さに象徴される戦争の本質をあらためて実感したのだった。

戦争の底深い魔性はそう簡単には把握できるものではない。懇話会での佐々木さんへの質問は予定時間を過ぎてでも尽きず、参加者の皆さん、まだまだ聞きたいこと言いたいことが胸の中に一杯残っているようだったが、途中打ち切りとせざるを得なかった。時と場所を変えて、このテーマを皆で考え、深める機会をもちたいと思う。

(世田谷「九条の会」の依頼によりHPに寄稿したもの)

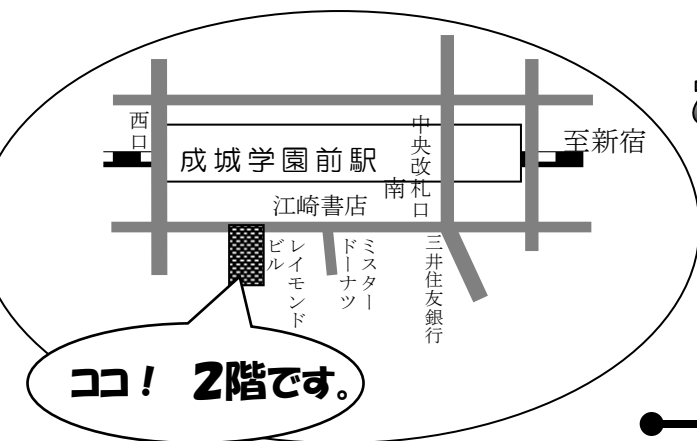
(高橋 明)

## 成城地域「九条の会」について

2004年、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子の9氏によびかけで「憲法九条、いまこそ旬——九条の会——」がつくられました。9氏は憲法改悪の危険性を訴え、全国に足を運ばれています。この訴えに賛同・呼応してたとえば「映画人九条の会」「詩人の会」「教師有志の会」「マスコミの会」や全国各地域で大小の会が発足し始め、憲法改悪反対の声を運動として広げ始めました。

同年10月、成城地域では「九条の会」発足時のビデオテープを見る会を開催したところ、期せずして会場からここ成城にも「九条の会」をつくろうとの声があがり、成城地域「九条の会」が発足しました。成城地域「九条の会」のこれまでの活動は、裏面に載せてあるとおりです。ぜひご覧ください。また成城地域「九条の会」では大江健三郎氏ら9人が出されたアピールの賛同署名を訴えています。

広く皆様に署名のご協力と、会が主催するつどいにご参加くださいますようお願いいたします。



## おねがい

このような会の常として、通信費・印刷費などの日常的な資金難に喘いでおります。ご賛同いただけますなら、そういうための基金として、1回 1000円 集めさせていただきたいのです。ご賛同いただけます方、どうぞよろしく願いいたします。

### 映画「蟻の兵隊」鑑賞と懇話会

映画「蟻の兵隊」は多数の雑誌に取り上げられ、内容はよく知られていると思われるのでここで詳しくは触れないが、日本軍首脳が戦犯追及を免れるために、山西省国民党軍の閻錫山（えんしやくざん）と取引して、日本軍将兵約2600人を、司令官命令により、武装日本軍として中国山西省に残留させ、中国内戦に参加させた。うち約550人が戦死。重傷を負ったが辛くも生き残って一九五四年帰国した奥村和一・元兵長が「残留の真相」を追及するが、その彼の活動のありさまを記録したドキュメンタリーである。

武装将兵残置と引き換えに、戦犯追及を免れ、閻のお墨付きをもらって日本に逃げ帰った澄田司令官らは、ポツダム宣言違反の罪を免れるために「日本軍の一部将兵が自らの自由意志で残留した」と偽証して、自分たちの残留命令を隠蔽した。日本政府もまた責任逃れのため、澄田らの偽証を丸のみして現在に至るまで真実を覆い隠し続け、司法もこれに事実上加担し、奥村さんから残留軍人の軍人恩給支給提訴を棄却している。彼ら残留軍人たちは坂本義和の言う「棄民」なのだ。

閻・澄田密約の証拠蒐めに、かつての戦地・占領地を訪ねる奥村は、自分たちが戦争被害者で

第1回 2004.10.30

## 「『九条の会』発足記念講演会の記録」ビデオを見る会

話題を読んだ9氏による「九条の会」が発足し、その時の模様を是非知りたいという声が8月の或る集会で出ました。記録ビデオテープを入手し、観る会を計画したことが成城地域「九条の会」の発足となりました。

その集會に寄せられたアンケートには「會が発足してよかった」「九条を広げるには何をしたらよいか」「集會での若者の発言がよかった」また「憲法の勉強会をしてほしい」などの声が多くありました。

「會」は9氏のアピールをひろげること、九条を中心に勉強を重ねることを当面の活動とすることを決めました。

第2回 2005.2.6

憲法九条 講演と交流の集い

## 「憲法第九条は世界市民のねがい」

講師 佐々木 隆爾 氏  
(日本大学教授)

ハーグ平和アピール市民会議(1999年5月)は「10の基本原則」の第一に「各国議会は、日本国憲法9条のように、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである」ことをあげ、全世界に訴えた。

第3回 2005.5.29

憲法九条 講演と交流の集い

## 「自衛隊の軍事力と憲法九条」

講師 山田 朗 氏  
(明治大学教授)

日本の自衛隊は「異常な軍事力」を備えた違憲の存在。既成事実のあとで法律がつくられ、戦争容認の価値観が社会に入ってくる。平和勢力の抵抗・反撃の拠点は、教育基本法と憲法九条にもとづく民意の形成。

## 峯岸賢太郎代表を悼んで

「會」の代表峯岸先生は、ことし5月11日、急逝されました。発足当時から牽引的存在で、とくに勉強会の講師は先生に負うところが大きかったです。冷静な情勢認識を内に秘めながら、あたかも教え子に接するように柔かい口調で世話人會をリードして下さいました。ご逝去が悔やまれてなりません。

第4回 2005.8.28  
連続学習会

## 「ヒロシマと憲法九条」

講師 小西 悟 氏

(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)

自ら被爆し、直後の惨状を目にしたショックの凄まじさに、それから自宅にたどり着くまでのすべての記憶を奪われてしまった。

『地獄』を生み出す絶滅兵器。人間を殺人マシンにさせる戦争を、どんな口実であっても起こさせてはならない。

憲法九条は歴史教訓と戦争体験が生み出した宝物だ。

第5回 2005.11.23  
映画と話し合い

## 映画 陸軍

原作:火野葦平

監督:木下恵介

主演:田中絹代・笠智衆・上原謙

昭和19年、戦時言論統制ことに軍の厳しい検閲下でありながら、戦争への異議申し立てを果敢にそして巧みに描きこんだ名作。

21世紀の観客に、戦争、中でも日本のアジア太平洋戦争を振り返らせ考えさせる。

第6回 2006.3.21 連続学習会

## 「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」

講師 山田 朗 氏

(明治大学教授)

前回上映した映画「陸軍」を観賞後、皆さんから「なぜ開戦に踏み切らなければならなかったのか知りたい」という要望に応じて再び山田先生にお願いした。

当時の弱小国への利権獲得戦争に走り出した無謀ともいえる開戦の実態が明らかになった。

第7回 2006.5.20

## 遊就館見学 ～バスツアー～

ガイド 東海林 次男 氏

(歴史教育者協会常任委員)

山田朗先生の講演「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」をあたかも検証するような遊就館の展示だった。

ガイド役の東海林先生の的確な説明で、参加者一同、いっそう歴史認識が深まったのではないかと思う。

